

研究部会報告



●信頼性・保天性●

●第14回

日時：7月21日(土) 14:30~17:00 場所：東京工業大学経営工学科 出席者：14名

テーマ：Reliability Symposium : Stochastic Model in Reliability Theory よりいくつかの話題を紹介。

発表者：福岡博(鉄道技研)，宮川雅巳(東工大)，鈴木和幸(東海大学)

4月に名古屋で開催された上記シンポジウムにおける報文の中から部会メンバーの発表である2件について，福岡，宮川の両氏からそれぞれ報告がなされた。また，鈴木氏より，その他のいくつかの報文についての紹介がなされた。

●政策科学●

●第4回

日時：6月16日(土) 14:00~17:00 場所：三菱総合研究所 出席者：12名

テーマ，講師：

①「事業における経営政策提案のための一試案」——マンパワーの有効活用をテーマに——荻野正浩

ブレインストーミングおよびグループ討論を主な武器として進めてゆく手法を用いた政策提案の事例を紹介した。人は誰でも，ものの考え方のハイラーキーをもっているが，創造的なエネルギーは，これをバラバラにくずして，同一平面上にもってくることから生まれるものであり，作業が政治プロセス化してしまつては良いものが生まれにくいことを確認した。

②「核戦争とその気象におよぼす壊滅的打撃」——政治的意味あいについて——斉藤 昂(防衛庁)

前回にひきつづき Foreign Affair 誌(Winter 1983/84)の記事を紹介し，人類生存のために，核兵器の保有量は，それを万一使用した場合にも，気象の影響をおよぼさない量以下にまで，地球の規模で縮小するべきであると論じた。

●第5回

日時：7月21日(土) 14:00~17:00 場所：三菱総合

研究所 出席者：11名

テーマ：「電気通信政策について」講師：飯田徳雄(日本電信電話公社)

内容：米国および日本における電気通信の発展過程を説明し，もはや，通信と情報処理との境界を明確にできないことを指摘し，電気通信の将来の姿について考察した。蓄積した情報の価値，いちど導入した機器・装備を更新する時の問題点，独占のメリット・デメリット等，多方面にわたる関連分野にも論を進めた。

●第6回

日時：8月26日 15:00~27日 10:00 場所：箱根宮の下保養所(当部会恒例の夏合宿を行なった。) 出席者：14名

テーマ・講師：

1. 「日本にとってのアメリカ」 福島康人(防衛研修所) 第2回の例会にひきつづき，テーマをより深く掘り下げた。まず，米国はよみがえりつつあると指摘した。その源泉は，米国のめざす体制が基本的に，国民の支持を得ていること・人種的多様性・競争原理・権力の分散等にあると分析した。日米関係を歴史的にながめ，今後の見とおしを述べた。まとめとして述べられた，今後21世紀に向けて日本の果すべき役割は，さらに増大していくという点に関して参加者は活発な論議を行なった。

2. 「防大におけるシステム分析の教育と研究」 山田武夫(防衛大学校) システム分析(SA)といっても，数学的な性格のものから，数理を用いないものまで，多様なものが現存する。数学的SAが，現実の場において有用性を発揮していないのは，①それ自体の弱さ ②アナリストの問題 ③売込み・実施上の問題，に起因しており，今後の方向としては，社会科学への接近，直観・交渉・価値観の導入，現存する各種手法の総合化，新しい視点で基礎的な問題にとりくむこと，などであろうと論じた。

●現場のOR教育●

●第16回

日時：7月26日 15:00~18:00 場所：中部電力会議室 出席者：7名 内容：需要想定に関する内容の検討と，テキストの目次について検討。

名鉄コンピュータサービス㈱のOAプラザ計算センターの見学を行なった。

●第17回

日時：8月22日 15:00~17:00 場所：中部電力会議室 出席者：5名 内容：前回検討したテキストの目次にし

たがって作成した例（線形計画法に関するもの）について討論。

データ入力部のプログラムの紹介。予測に関するもの、多変量解析に関するもののスケジュール調整。

●経営●（研究グループ）

●第15回

日時：6月9日（土）14:00～17:00

場所：東京都勤労福祉会館 出席者：6名

テーマ：自由討論「これからの経営の要」

下記の如きテーマが提起され・討論されて、その対策がたてられました。①最先端合成、醗酵技術による製薬における事故の想定と対策。②情報化社会における情報産業の人事の望ましいあり方・経営のあり方、これに関連して自衛隊の人事の問題点、旧日本海軍におけるやり方なども検討された。③日本の神社の現状と、その望ましき活性化、国民や地域住民と神社のコミュニケーション等。

●第16回

日時：7月7日（土）14:00～17:00

場所：東京都勤労福祉会館 出席者：7名

テーマ：「関西財界の体質と新関西空港」 講師：沢 勲（関西大学）

内容：日本の古代から連続とつづいている関西の財界を、その歴史性・文化性の面から考察し、さらに近世・近代におけるその実務における企業活動の生態および、その実利性と先見性と企画力と実行力による新関西空港の計画について解説された。

●第17回

日時：8月11日（土）14:00～17:00 出席者：6名 場所：東京都勤労福祉会館

テーマ：「電気通信の開放とその課題」（VAN・LAN・INSなど）

講師：梨山修（コンサルタント 電々公社OB）

電々公社は現在全国4,300万加入約6,000万台の電話の普及と全国完全自動化の達成にともない業績も健全に上昇をつづけており、その事業収入も間もなく4兆円をこすものといわれています。現在、通信の本質を見きわめ、その原点に立って、CATV・LAN・VAN・INS等と加入者各位の便益とご満足のための通信の多様化につくしています。

★ 1985年度研究部会の新設・継続申請受付 ★

研究普及委員会では、その活動の大きな柱のひとつとして研究部会・グループの設立・運営のお手伝いをしてまいりましたが、来年度もこの方針にしたがって研究部会を積極的に育成していくことになりました。つきましては、新しい部会活動のご提案をふるって学会事務局にお寄せください。また現在活動中の部会のうちで来年度も継続して活動することを希望される部会の主査の方は、継続の申請をしてください。申請用紙は事務局に用意してあります。締切は**12月3日（月）**です。部会メンバーの公募につきましては当委員会がお手伝いします。また部会が発足しますと、財政的な補助もいたします。部会の設置期間は原則として2カ年以内ですが、理事会の承認が得られれば、さらに1カ年以内延長することも可能です。部会のテーマにつきましては、基礎理論から実践研究までご自由にお考えいただいて結構です。

現在、次の15部会が設置されております。

待ち行列／数理計画／数理計画法（九州）／信頼性保全性／現場のOR
教育／意思決定のための会計情報／OR/MSとシステムマネジメント
／第三世界とマイコン／確率モデルとその応用／未来分析／離散システム
／システム最適化／決定モデルとその応用／政策科学／交通問題

●DP● (研究グループ)

日時：6月12日(火) 18:00~20:00 場所：日科技連
出席者：4名

発表：葦野正美，文献紹介（マルコフ決定過程と待ち行列）

日時：7月17日(火) 18:00~20:00 場所：日科技連
出席者：4名 テーマ：非協力確率ゲームについての注意 講師：安田正実(千葉大学教養部)

内容：MARKOV 決定過程を多人数化した問題の1つとして，NASH 均衡にもとづく非0和非協力確率ゲームが考えられている。ここでは，この問題が，適当な Lagrange function を導入することにより，2人0和ゲームの基準，すなわち MINIMAX 定理に帰着されることを示す。したがって連続性の条件のもとで，MINIMAX 解が存在すれば，それは同時に NASH 解を与えることがわかる。

●予測と周辺課題● (研究グループ)

●第36回

日時：6月20日(水) 18:30~20:30 場所：早大システム研15F 出席者：10名

テーマ・講師：(1) 石油消費制限のもとでの産業動向シミュレーション：西野吉次(早稲田大学)，(2) 異常値検出能力をもつフィルターによるトラヒック予測：斎藤洋(日本電々公社) (3) 夏季電力需要と気象要因：小野賢治(電力中央研究所)，(5) 顔形グラフでみる国鉄経営の推移：村中聖(東京交通短大)

●未来分析●

●第14回

日時：9月1日(土) 14:00~17:00 場所：東京都勤労福祉会館 出席者：18名

テーマ：VANの自由化と産業構造への影響 講師：花岡 菫(メルコムビジネス)

内容：VANについては，もっかブームをまきおこしているが，その実体については各人がいろいろ違ったイメージをもっていることも事実である。この部会において，VANの正体をくわしく分析するとともに，システムとしての問題点が明らかにされた。また一般企業において，VANに期待するものはたして何かについて，討論が行なわれ，VANを考えるうえで示唆に富むものがあった。